

新潟市歴史資料だより

資料紹介

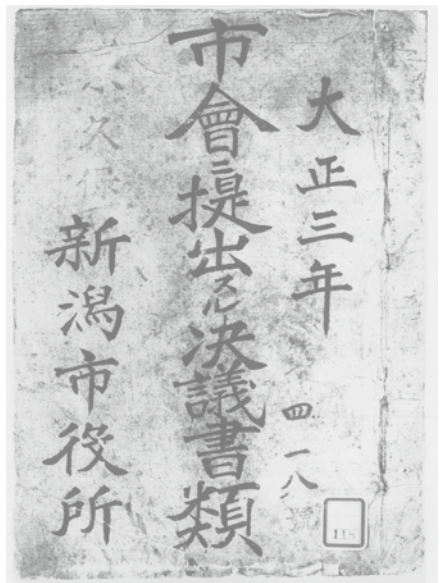
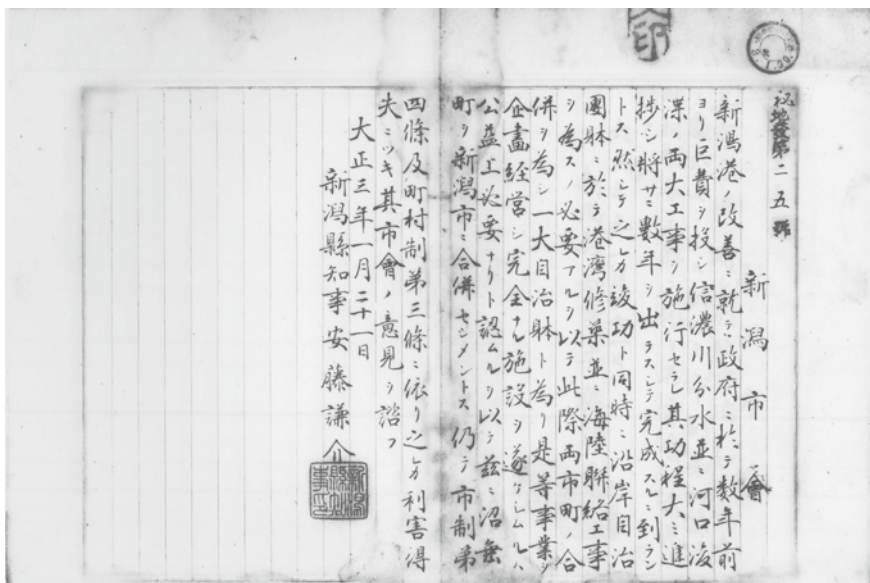
新潟市役所文書

新潟市役所文書は、昭和62（1987）・63年に当時の市史編さん室が調査・収集した文書群です。資料点数は228点で、明治期から昭和戦前期にかけての議案や決議書類など、市参事会や市会関係の文書が多く含まれています。

下に掲載した文書は、今から100年前、大正3（1914）年の「市会ニ提出スル決議書類」の表題がついた綴の文書のうちの一つです。同年1月21日付で県知事から市会あてに出された文書で、沼垂町との合併についての諮問案です。この中で知事は、大河津分水工事の完成と信濃川河口の浚渫工事の進展

によって、港湾修築と海陸連絡工事が必要となるので、新潟市と沼垂町は合併して「一大自治体」になって、こうした大事業を遂行しなければならないと述べています。

知事の諮問は1月28日に新潟市会と沼垂町会で審議され、それぞれ満場一致で合併を受け入れることに決し、県は4月1日に両市町の合併を告示しました。同日夜、新潟と沼垂でそれぞれ合併を祝う提灯行列がありました。沼垂の行列では、鉄道唱歌のメロディにのせて「祝いもろ人うれしくも われらは成りぬ大市民 慣れし衣をぬぎかえて 新たにまとう 晴れのきぬ 古き歴史に別れ行く 胸の曇りも行く末の 望みの風に掃わせて いざもろ共に楽しまん」と歌われました。



（綴の表紙）

大正三年

第四一八号

市会ニ提出スル決議書類

永久保存新潟市役所

（綴の表紙）

秘地発第二五号

新潟市会

新潟港ノ改善ニ就テハ、政府ニ於テ数年前ヨリ巨費ヲ投シ、信濃川分水並ニ河口浚渫ノ両大工事ヲ施行セラレ、其功程大ニ進捗シ、将サ二数年ヲ出テスシテ完成スルニ到ラントス。然シテ之レカ竣功ト同時ニ、沿岸自治団体ニ於テ港湾修築並ニ海陸連絡工事ヲ為スノ必要アルヲ以テ、此際両市町ノ合併ヲ為シ、一大自治体ト為リ、是等事業ヲ企画経営シ、完全ナル施設ヲ遂ケシムルハ、公益上必要ナリト認ムルヲ以テ、茲ニ沼垂町ヲ新潟市ニ合併セシメントス。仍テ市制第四及町村制第三條ニ依リ、之レカ利害得失ニツキ其市会ノ意見ヲ諮フ

大正三年一月二十一日

新潟県知事 安藤謙介 印

平成25年度事業概要

多くの方々のご協力を得て、資料の公開・保存などに関する事業を実施しました。概要を紹介します。

■資料の公開

歴史資料整備室で古文書等の複製資料や図面・写真、行政刊行物などを公開しています。旧更正図・土地台帳は、横越公文書分類センター（江南区役所横越出張所3階）で公開しています。利用の際は、事前に歴史資料整備室へご連絡ください。今年度の一般利用状況は以下のとおりです。

区分	図書	更正図	文書	公文書	写真	計
閲覧	62	48	105	36	22	273
複写	67	55	95	26	41	284
掲載	3	0	7	0	20	30
計	132	103	207	62	83	587

(平成26年 3月20日現在)

■資料の調査・収集

①歴史資料所在調査

市内の民間や組織が所蔵している歴史資料の現状確認調査を行っています。今年度は中央区（7か所）・東区（2か所）・西区（5か所）・西蒲区（2か所）・江南区（3か所）・秋葉区（2か所）で調査しました。

②歴史公文書の引き継ぎ

市役所各課等の廃棄公文書の中から歴史的価値のある文書を選別し、歴史公文書として引き継いで保存しています。今年度は879点（紙文書837点、電子文書42点）、文書箱にして52箱を引き継ぎました。今年度は、市役所第二分館の解体に伴い廃棄される文書の選別・引き継ぎも行いました。

■資料の整理・保存

①歴史資料の整理

市へ寄贈された歴史資料の整理・目録作成を行っています。今年度の整理状況は以下のとおりです。

文書群名	区分	点数	主な内容
新潟商工会議所文書	寄贈	319	商工会議所関係書類
江南区砂崩 小泉家文書	寄贈	262	近世村役人文書
中央区関屋御船蔵町西潟家文書	寄贈	58	小学校関係資料ほか
西蒲区曾根 二村氏収集文書	寄贈	2	小澤精庵拓本ほか
間瀬村役場文書	寄贈	19	旧間瀬村行政文書
西蒲区和納 横山家文書	寄贈	206	地主経営資料ほか
東区石山 渡辺家文書	寄贈	283	石山地区農協資料
江南区小杉 中川家文書	寄贈	1,435	近世庄屋文書ほか

②歴史資料のマイクロフィルム撮影と複製本の作成

歴史資料のマイクロフィルム撮影と焼付けによる複製本を作成しています。今年度の撮影フィルム本数は27本、作成した複製本は以下のとおりです。

- ・沼垂町役所文書（近世後期～幕末期）：4冊
- ・豊栄市役所(岡方支所)文書(明治～昭和期)：165冊

③合併市町村の自治体史編さん歴史資料の移管

これまで市役所各課の長期保存文書として公文書分類センターに収納していた、白根市史・小須戸町史・味方村誌・岩室村史の編さんに利用された古文書等の歴史資料を歴史文化課に移管しました。閲覧・複写等、利用の際は歴史資料整備室へご連絡ください。

④旧更正図・土地台帳の移管と整理

資産税課から、旧豊栄・亀田・横越・新津・小須戸・岩室・西川・巻の旧更正図・土地台帳を歴史文化課に移管し、横越公文書分類センターで整理・目録作成をしています。完了したのから順次公開します。詳しくは歴史資料整備室までお問い合わせください。

■歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」の開催

9月7・14・21・28日に、新潟市万代市民会館で、歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」を開催し、毎回100名を超える多くの方々からご参加いただきました。各回の講義名と講師は以下のとおりです。

日程	講義名	講師
9/7	城の山古墳とその周辺	胎内市教育委員会文化財係長 水澤幸一
	古代越後の鮭関連資料を読む	歴史文化課 相澤 央
9/14	16世紀ころの「新潟」について～高野山清浄心院「越後過去名簿」を見ながら～	新潟郷土史研究会会員 山上卓夫
	関東管領上杉憲実の出家と室町時代の蒲原津～上杉家文書「上杉長棟越後知行分重書案」を読む～	歴史文化課 長谷川伸
9/21	北前船の航跡～近世新潟町の廻船～	新潟県立文書館文書調査員 菅瀬亮司
	上木戸村の御用留を読む	歴史文化課 三田裕子
9/28	会津・米沢両藩の新潟戦略～戊辰戦争と開港場新潟町～	新潟大学名誉教授 溝口敏磨
	明治学制期の学校設立文書を読む	歴史文化課 熊倉忠夫

新潟の歴史こぼれ話 (5) — 沼垂町の大火はいつ? —

今から100年前の大正3(1914)年の4月1日、新潟市と沼垂町は合併しました。合併に向けた動向について、『新潟市史』通史編4は次のように記述しています。「明治40(1907)年に沼垂町で大火があったときに、新潟市の消防ポンプが活躍した。このことがきっかけとなって、合併問題が日程に上るようになった。」この記述は、昭和3(1928)年にまとめられた合併の記録『新沼合併私録』に基づくと考えられますが、『新潟新聞』には、明治40年に沼垂町で大火があったという記事は見当たりません。よくよく新聞を見ていくと、翌41年2月4日の記事

に「2月2日に沼垂町で火事があり、全焼家屋14棟などの被害が出た。新潟市から警官や消防夫が蒸気ポンプを持って消火の応援に駆け付けた。翌日、沼垂町助役がお礼のため新潟警察署と新潟市役所を訪れた」とあります。『新沼合併私録』や『市史』が明治40年のこととする沼垂町の大火は、翌41年2月の誤りであることが分かりました。

大火の後、両市町は同年6月と12月に懇談会を開催するなど、合併に向けて動き出します。しかし、これまでの歴史的経緯や経済状況の違いなどのため、反対意見も多く、なかなか進展しませんでした。県知事の積極的な関与のもと、両市町の合併が実現したのは、大火から6年後のことでした。

歴史文化施設紹介

— 古津八幡山遺跡 歴史の広場 —

「古津八幡山遺跡 歴史の広場」は、平成17(2005)年に国史跡に指定された古津八幡山遺跡を整備し、平成24年4月にオープンしました。古津八幡山遺跡は、弥生時代後期の大規模な高地性環濠集落を主体とする遺跡で、卑弥呼の時代に起こった「倭国大乱」の影響がこの地域にも及んでいたことを示す遺跡と考えられています。また、古墳時代には、県内最大の直径約60メートルの円墳が造られました。

広場内の弥生時代のムラを再現したエリアには、^{たて}竪穴住居や環濠が復元されています。竪穴住居は中に入ることもでき、当時の人々の生活の様子を体感できます。古津八幡山遺跡の麓にある「弥生の丘展示館」では、遺跡から出土した石器や土器など500点以上を展示し、アニメーションやイラスト、復元模型などで遺跡の様子を分かりやすく紹介しています。また、^{まがたま}勾玉づくりや弓矢体験などの体験メニューも充実しています。

<案内>

- ・ 開館時間：午前10時～午後5時
- ・ 休館日：月曜日(休日を除く)、休日の翌日
年未年始
- ・ 入館料：無料(体験メニューは一部有料)
- ・ 所在地：新潟市秋葉区蒲ヶ沢264番地
- ・ 電話：0250-21-4133
- ・ 交通：磐越道新津ICから車で約15分、
新津西スマートICから車で約14分
JR新津駅からタクシーで約15分、
古津駅から徒歩で約20分



復元された竪穴住居



弥生の丘展示館



△案内略図▽

写真紹介

新潟地震による被害

今から50年前、昭和39（1964）年の6月16日、午後1時2分ごろ、^{あわ}粟島南方沖を震源とするマグニチュード7.5の大地震が発生しました。新潟地震です。新潟市では震度5を記録し、死者11人、負傷者125人、全壊（全焼）2,338世帯、半壊（半焼）7,595世帯、部分損傷1万703世帯、床上浸水1万283世帯、床下浸水2,051世帯などの被害を受けました。右に掲げた3枚の写真は、新潟地震による被害を象徴する写真です。

写真1 立ち上る黒煙は、地震発生直後に出火した昭和石油新潟製油所の石油タンク火災の黒煙です。製油所付近は、地震による地下水の噴出や数度にわたって打ち寄せた津波のため浸水し、水面にはタンクやパイプから漏出した多量の油類が漂っていました。火はこの油類に引火してたちまち一帯に燃え広がり、周辺の住宅を延焼しました。タンク火災が完全に鎮火したのは、出火から15日後の7月1日でした。

写真2 橋桁が落下した昭和大橋です。昭和大橋は、地震直前に開催された新潟国体を契機に、木橋の昭和橋を永久橋に架け替え、昭和大橋と改称して、39年5月21日に全面開通したばかりでした。11本の橋脚と12スパン（橋脚と橋脚の間が1スパン）の橋桁からなる橋で、長さは303.9メートル、幅は24メートルでした。地震により、5スパンの橋桁が川中に落下し、左岸側の橋の取り付け部分の道路も大きく亀裂が生じ陥没しました。応急復旧工事は6月30日に着手され、12月3日に開通しました。

写真3 横倒しになった川岸町の県営アパートです。被災した住人が、天井を向いてしまった窓から家財道具を取り出しています。倒れ方がゆっくりだったためか、幸い死者はありませんでした。川岸町は昭和の初めに信濃川を埋め立ててできた所で、地震による多量の噴砂や地下水の噴出のため、建物の傾斜や陥没など大きな被害を受けました。



写真1 石油タンク火災の黒煙



写真2 落下した昭和大橋（信濃川左岸から）



写真3 横倒しになった川岸町の県営アパート

お願い

歴史資料の所在調査を実施しています。江戸時代や明治～昭和期の文書・写真、戦中・戦後の記録などがありましたら、ご連絡ください。また、お持ちの古文書等の保存方法についての心配ごとがありましたら、歴史文化課までお知らせください。

編集・発行 新潟市文化観光・スポーツ部
歴史文化課（担当：歴史資料整備室）
〒951-8550 新潟市中央区学校町通1番町602-1
TEL 025-226-2584
FAX 025-230-0412
Eメール rekishi@city.niigata.lg.jp